

岩手で暮らす人々の元気の源になる「結いっこ」マガジン

元気はつらつ！結いっこニュース

◆『いわて子どもあそび隊』

被災地で、被災者のために、イキイキ活動！

◆なでしこ会（陸前高田市）

地域貢献・地域づくりを応援しています！

◆昔話を語り伝える水沢「プレアデス」の会

「明日から活用」情報

こんなとき、どうするの？

◆子どもが夜に体調を崩した時

いき
いき

いき
いき
いき
いき

Vol. 4 2014

【さあ、支えあおう！】



公益財団法人いきいき岩手支援財団

活動は元気の源！

元気はつらつ！
結いっこニュース

岩手県社会福祉協議会の
『いわて子どもあそび隊』

被災地の子どもたちに 特別な遊びの時間を提供。



女の子たちは岩館さんから教わる玩具作りに夢中。

得意分野を活かした遊びを工夫

岩手県社会福祉協議会児童館部会では、被災地の児童館や放課後児童クラブなどの施設やそこに通う子どもたちへの支援を目的に、平成23年4月に『いわて子どもあそび隊』を結成して活動しています。これは児童館職員など県内で子どもに関わる人たちの有志によるグループで、依頼があった施設に出向いて遊びのプログラムを提供したり、施設のスタッフの通常業務の手伝いなどをします。

事務局の岩館恵美子さんによると、遊びのプログラムは依頼施設の要望やメンバーの得意分野を活かして決めているとのこと。例えば、絵本の読み聞かせをしたり、わらべ唄を歌ったり、工作などをしています。

岩館さんは「また来てね」と言われた時が一番うれしい。今後はもっと多くのメンバーを巻き込んで活動を続けていきたい」とさらなる支援

を誓っていました。

子どもたちは、「どれも初めて作るものばかりなのでおもしろい」とうれしそう。また『松ぼっくり』の指導員の鈴木松代さんは、「いつもと違う大人と遊べるということでお子様たちはこの日が来るのをとても楽しみにしていました。私たちも、子どもたちを一日中預かる冬休み中に来ていただけて助かります」と、子どもたちが工作中に夢中になつてゐる様子に目を細めていました。

岩館さんは「また来てね」と言われた時が一番うれしい。今後はもっと多くのメンバーを巻き込んで活動を続けていきたい」とさらなる支援

「初めての工作」に夢中に

取材時は、小学1年生から6年生まで20人の子どもが利用する陸前高田市の学童クラブ『松ぼっくり』での活動。冬休み中とあって、遊べる時間がたくさんあることから、岩館さんとメンバーの吉田実樹さんは子どもたちに数種類の工作を紹介しました。トイレットペーパーの芯を使った玩具「くるりんぱ」や、牛乳パックを使ったパズル作りは、特に女の子たちに好評。一方、男の子たちは、紙コップを使ってブーメランを作り、すぐに部屋の中で飛ばしていました。



『いわて子どもあそび隊』の岩館恵美子さん(右)と吉田実樹さん。



吉田さんに教わりながらブーメランを作る子どもたち。



紙コップを使って作ったブーメラン。



**被災地で、
被災者のために、
イキイキ活動!**

**菓子作りなど
皆で集まる機会をつくり
楽しく元気に。**

陸前高田市・広田半島にある長洞仮設住宅では、住民が『長洞元気村』と名付けた自治組織をつくり、復興に向けて様々な取り組みをしています。『なでしこ会』は、その元気村の女性有志の集まり。メンバーは50代から80歳の12人で、昼間は一人で家の留守を預かることが多いことから、「気を紛らわすために皆で集まって何かしよう」と、震災の年の夏に結成しました。

主な活動は、陸前高田市の伝統菓子「ゆべし」作り。ゆべしは米粉や砂糖などで作る和菓子で、ふだんのおやつにはもちろん、冠婚葬祭にも欠かせないもの。そこで、復興関連のイベントや、お盆・年末に同住宅敷地内で開催する「市」で販売したり、地元の人からの注文に応じて作っています。

作業は、都合がつく人だけが同住宅内の集会所に集まって行います。「作り終わったあと、お茶を飲みながら、おしゃべりする時間が楽しみ」とメンバーたちは口を揃えます。また、同会のゆべしは、陸前高田市では定番の二ッキ味や味噌味のほか、梅干し、うぐいす粉、イチゴなどバラエティ豊か。それぞれの味わいは、豊かなのに甘さが控えめな点が好評で、現在、工房を建設中です。

同会では、ほかにも、季節の魚介類や農産物を使った加工品も作って販売しているとのこと。今後も無理せず楽しく活動を続けることを目標にしています。



地域貢献・地域づくりを応援しています！

「昔話を語り伝える水沢『ブレアデス』の会」は、郷土の昔話をイベントなどで地域の人たちに伝えていたるボランティアグループです。「何か社会に貢献したい」と始めた活動ですが、昔話から教訓を学んだり郷土への興味が深まるなど自分たち自身も得るものが多く、楽しみながら語り伝えています。

水沢「ブレアデス」の会

昔話を語り伝える

「昔話を語り伝える水沢『ブレア

デス』の会」は、同区の南地区の民生委員を「卒業」した60代から70代のメンバー7人が、8年前に結成したグループです。『ブレアデス』とは星団の名前で、和名は「昴」。肉眼で見ることができるもののが7個あると言わされており、メンバーの人数と同じであることから名付けたそうです。

「みんな同じ時期に民生委員をやめることになったのですが、このまま別れるのは、さみしいねという話になつて。それなら、ただ集まつておしゃべりするだけでなく、社会に貢献できる活動をしようということになつたんです」と佐々木康恵さんは結成当時を振り返ります。

水沢区のある奥州市は、「昔話の宝庫」と言われているとか。佐々木



3月3日の特別公演では、会場である囲炉裏のある部屋が満員になりました。

さんたちメンバーも、子どもの頃地元に伝わる昔話を祖父母から聞いたことがありました。それを今に語り伝える人がいないことに気づき、決心しました。

演目にしている昔話は、「掃部長者」や「竈神さま」など地元奥州市に伝わるものを中心に約100話で、会長の鈴木時雄さんが台本としてまとめています。また、郷土の偉人についても地域の人たちに知つてもらいたいと、その偉業を物語に創作することも。また、若い畠田奈美子さんが新たに創作に挑戦し始め、これらの活躍が期待されています。

昔話を暗記して公演で語るのは全員で分担しますが、「この話は○○さん」などと担当者を決めることは



特別公演に出演した6人のメンバー。練習はそれぞれ自宅でやるので、公演でメンバーの昔語りを聞くのが楽しみだとか。

●さあ、誘ってみよう!●

地域について
深く学べるのが魅力

暗記した昔話は、毎月一回市内の
デイサービスセンターで利用者に披
露したり毎年秋に自主公演するほか、
依頼があれば福祉施設や幼稚園、公
民館などでも公演します。また、毎
年奥州市水沢区の武家住宅資料館で
開催されるひな人形展に合わせて、
会期中の3月3日に特別公演も行つ
ています。

今年の特別公演では『掃部長者』

していません。「体調が悪くなつて
急に公演を休む可能性もあるので、
その時に誰もが代役をつとめられる
よう、全員がすべての昔話の暗記に
取り組んでいるんですよ」と鈴木会
長。おかげで、公演時に途中で言
葉に詰まつても他の人が代わりに語
ることができるので、公演に台本を
持つて行くことはめったにないそう
です。



「昔話には教訓が多く、
学ぶことが多いんですよ」と会長の鈴木時雄
さん。



鈴木さん手書きの台本。
この日の特別公演では全員参加のリレー形式
で語るため代役がないことから、「特例」で持参したそうです。



83歳というメンバー最高齢の寺嶋三男さんは、
公演最後に得意の相撲甚句をオリジナル歌詞で披
露し、会場を盛り上げました。



特別公演で『掃部長者』を語る菊池英子さんと、北郷茂井羅物語『この広い原野を』を語る佐藤房枝さん。それぞれ「ウォーキングしながら」「草取りをしながら」練習しているそうです。



活動継続の秘訣でしよう。

また、「熱心に聞いてくれる様子
を見るのがうれしい」「昔話を通じ
て地域のことより深く知ることが
できる」などと活動の魅力を語るメ
ンバーの皆さん。今後も地域の伝説
や民話を掘り起こしながら語り続け
たいと願う一方、若い世代に少しず
つ引き継ぐことができるよう、新し
いメンバーの加入を待ちにしてい
るところです。

●さあ、活用しよう！●



[明日から活用]情報

(公財)いきいき岩手支援財団の情報は
下記ホームページをごらんください。

<http://www.iwate-silverz.jp/>



ケアプラザいわて【福祉用具展示室】のご案内

展示コーナー

見て触れて試して 感じてください

『ケアプラザいわて』では、生活に役立つ福祉用具の積極的活用と、介護意識の普及・向上のために、最新の福祉用具を展示しております。介護用品は実際に試すことができますので、購入の場合の参考にしてみてはいかがでしょうか。介護用品以外にも、生活用品やレクリエーショングッズ等も展示しており、どなたでも自由に見学できます。介護用品購入の相談にも対応しておりますので、お気軽にご利用ください。

【開館時間】

月曜日～金曜日（土日祝日・年末年始は除く）
9:00～17:00

●お問い合わせ

電話：019-625-7490



キッチンコーナー



「介護サービス情報公表システム」のご案内

「介護サービス情報公表システム」を活用すると…

- * 知りたい地域の介護サービス事業所を検索できます。
- * 介護サービス事業所の情報や特色がわかります。

「介護サービス情報の公表」は、利用者自身が介護サービス事業所を比較検討しながら適切に選択できるよう、情報を提供するしくみです。よりよいサービスを受けるための参考にされてはいかがでしょうか。

●お問い合わせ

[指定情報公表センター]

公益財団法人いきいき岩手支援財団

電話：019-613-8123

FAX：019-625-7494

公表システムURL <http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php>



読者アンケート

ご応募くださった方の中から
抽選でプレゼント！

皆さんの声を、「いきいきイーハトーブ」にお寄せください。アンケートにお答えの皆さんの中から抽選で下記商品をプレゼントします。下記の(1)～(4)に対する回答と、住所・氏名・年齢・職業・電話番号をお書き添えの上、はがきでご応募ください。

<プレゼント>



●設問(1) 「いきいきイーハトーブ」をどこで読みましたか？

(番号でお答えください)

- ① 職場
- ② 福祉施設
- ③ 銀行
- ④ 行政関連施設
- ⑤ その他 ()

●設問(2) 今回の企画で興味をもったものは何ですか？

(番号でお答えください)

- ①「元気はつら！」結いっこニュース
- ②「被災地で、被災者のために、イキイキ活動！」
- ③「地域貢献、地域づくりを応援しています！」
- ④「[明日から活用] 情報」
- ⑤「こんなとき、どうするの？」

●設問(3) あなたが今「気になる」ものは何ですか？

- ① 防災のこと
- ② 医療のこと
- ③ お金のこと
- ④ その他 ()

●設問(4) 本誌へのご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

また、こんな元気なシルバー世代がいるよ、といった情報がありましたらお寄せください。

応募締切

平成26年4月末日

当選発表

商品の発送(平成26年5月下旬頃)をもって代えさせていただきます。

送り先

〒020-0015 盛岡市本町通3-19-1
(公財)いきいき岩手支援財団
「いきいきイーハトーブ4号
読者アンケート」係

「岩手県民長寿文化祭第26回作品展」 作品募集中

今年も「第26回作品展」に出品する作品を募集しております。各部門に一点ずつ出品できますので、たくさんのご応募をお待ちしております。

応募の締切りは、5月9日(金)となっております。

なお、この作品展は、「ねんりんピックとちぎ2014美術展」への出品作品の選考会も兼ねています。

【募集概要】

*募集作品

日本画、洋画、彫刻、工芸、書、
写真の6部門

*作品搬入日時

平成26年6月5日(木) 10時～12時

【作品展開催の案内】

*開催日

平成26年6月6日(金)～6月8日(日)

*会 場

盛岡市民文化ホール
展示ホール(マリオス4階)

●お問い合わせ

公益財団法人いきいき岩手支援財団
総務・健康支援グループ

電話：019-626-0196

FAX：019-625-7494



☆余暇に作品づくりを楽しんでいる方も
☆これから手習いを始めようとしている方も
先輩が「心と技」を注いだ力作が
お待ちしています。



●さあ、一歩踏みだそう!●



熱が高くてすやすやと眠っているようなら、ひと晩様子を見ましょう。

嘔吐や下痢の場合、1～2回なら様子を見ましよう。ただし下痢が血便の場合はすぐに受診してください。
発熱の時も嘔吐や下痢の時も、家で様子を見る際に必要なのが、

基本的には、子どもの機嫌で判断します。例えば、熱が高くてもうやすやすと眠っているようなら、ひと晩様子を見ても大丈夫でしょう。逆に泣いている時や、咳込んだり吐いたりという症状が加わっている時には、受診をおすすめします。

自分の意志を伝えられるような年齢の子どもで、発熱にともなって頭痛を訴えるようなら、家にいる解熱剤で様子を見ても良いです。

A2 不安ならお電話を



家で様子を見る時には、水分をこまめに与えてください。

こども救急相談電話

◆電話: 019-605-9000または局番なしの#8000
※#8000はダイヤル回線電話、IP電話、PHSからは利用できません。
◆受付時間/19~23時(年中無休)

みんなの力で! がんばろう岩手

この緑の封筒が届いたら、
JAバンクへ。

JA年金アドバイザーがお手伝いさせていただきます!

“年金お受取り”的ご相談は、お近くのJAバンクへ。

JAI新潟・JAいわて中央・JAいわて花巻・JA岩手ふるさと・JA江刺・JAおおぶなど・JAいわて平泉・JA岩手中央駅・JA岩手県信連

あなたの
「気になること」を
その道のプロが
ズバッと回答!
**こんなとき
どうするの**

Q
子どもが夜に体調を崩した時、
病院に受診するべきかどうか迷
います。判断基準などがあつたら
教えてください。

A1 機嫌で判断する

解熱剤の使い方にはいろいろな意見がありますが、私は子どもの不快な状態を改善することを優先しています。

また、インフルエンザが疑われる場合も、急いで受診する必要はありません。というのも、インフルエンザは発熱して12時間経たないと反応が出ないといわれており、その前に受診・検査しても判断ができず治療も調剤もできないからです。ただし、インフルエンザの場合は脳症を発症する危険もありますので、意識がはつきりしているかどうかなど状態をよく観察す

冷やすこと(発熱の場合)と水分をこまめに与えることです。
こうした判断が難しかったりどうしても不安な場合は、岩手県医師会の「こども救急相談電話」に電話しましょう。子育て経験や医療現場での経験が豊富な相談員が対応しますので、安心です。

また、小児科医としては、子どもの機嫌の良い状態がすぐに判断できるようふだんから観察しておくこと、早寝早起きなど規則正しい生活をさせて抵抗力をつけることをアドバイスしたいですね。



一般社団法人岩手県医師会
山口クリニック院長
山口淑子先生
常任理事

A



まちのみんなの
JAバンク岩手
<http://www.jaiwate.or.jp/jabank/>